

## I -②(1) 小学校体験から卒園までの幼小教員コラボ実践と効果(令和元年度)

本学園の「幼小接続の構想」では、小学校体験から卒園までの約1か月間を「小学校生活を体験し、新しい環境との出会いを嬉しく感じたり、幼稚園生活に取り入れれたりできる環境づくり」と位置付け、よりなめらかな接続ができるようにと考えている(I -②幼小接続構想図を参照)。

小学校体験時に小学校ごっこをした嬉しさを園生活にもちこみ、活動の始めと終わりに号令をかけたり、みんなと一緒に椅子に座って楽しく活動したりする幼小教員コラボによる「小学校ごっこ」を幼小合同で実施した。

小学校教員は、まず、幼児たちとしっかり遊び、顔なじみになってからTTに入るようにした。実施に際しては、主に幼稚園教員がT1を担い、小学校教員はT2として活動を支援しながら、よい行動を見付け、褒め広げる役割を担うようにした。また、卒園式の練習も、一緒に話を聞いたり、決められた時間椅子に座ったりすることから、小学校生活への接続を意識し、小学校教員がよい行動を褒めたり、入学へのメッセージを送ったりするようにした。本稿では、「小学校ごっこプログラム」の試行の様子と効果を報告する。また、近隣の幼、保、子ども園への幼小教員コラボ活動を提案する。

### 1 小学校教員が幼児と遊ぶ(下線部は小学校教員の学び)

#### (1)活動の様子

2月10日は、小学校体験でなわとびや算数の授業ごっこを一緒にしたY教諭が幼児と遊び、関係づくりを行うために来園した。なわとびをしていた何名かの幼児がさっそくやってきて「一緒にやろう、上手になりよるで」などと声を掛けてくる。

Y教諭も小学校体験でしたことが引き続き、園での遊びの中に活かされていることを知り、満面の笑みでなわとびを楽しんだ。園児の思いに触れたり、幼稚園の教員から幼児の行動の背景を聞いたりすることにより幼小連携の重要性を実感した。

2月12日は、M教諭が来園。園では2月のお誕生会を行っている様子。M教諭を見つけた幼児は「ここ座りな。一緒に見よう。今年長さんの話をしよんで」と温かく迎えてくれた。

誕生会では、誕生月の保護者が自分の子どものよさを伝え広げていた。保護者主体の企画だそうだ。皆で育てる気風がいいなあと感じた。

片付けになると、年中さんや年少さんの面倒を見る子が多くて感心した。教師が指示しているわけでもないのに場をみて判断できている。日常の保育での褒める声かけの効果だろう。小学校に入学しても指示を少なくして流れの中で動ける子を育てたいと感じた。

2月13日も、小学校体験でしたなわとびがブーム。遊びに来園したK教諭をさっそく誘い、一緒になわとび。「今日は、チームで競争しようよ」と幼児が提案、「幼小の先生チーム」対「幼児チーム」でなわとびを楽しんだ。なわとびの後はK教諭を連れて、教室へ。

小学校体験の「おもちゃの国」で遊んだ、おもちゃを幼児がつくり、K教諭はお客さん役になり、満面の笑みで教えてくれる幼児を見て、小学校体験の喜びが園生活につながっていることを実感した。

2月14日は、A教諭が来園。幼児たちは「部屋に入って、入って」と誘い、椅子を用意する。A教諭が椅子に座ると「歌を聞いて、聞いて」と歌い出す。すると、座っていなかった幼児も急いで椅子に座り、みんなで歌を歌った。その後、とりかごゲームと伝言ゲームをみんなで楽しんだ。



Y先生 上手やな 僕も私も



お誕生会と一緒に



K先生 今日はお客さんだよ

## (2) 遊んでみての小学校教員の声

○ 幼稚園で一緒に遊んでみて、小学校での様子とは違った子供たちの姿が見られたことがよかった。人間関係やその子の考え方も分かるので、子供理解につながる。また、そういった子に対して、幼稚園の先生がどのように関わっているかを知ることも今後の対応の仕方のヒントになる。例えば、Tくんが幼稚園で遊んでいる際に、おにごっこでタッチされてすねて、遠くへ行ってしまう。その時のことを幼稚園の先生に話すと、以前に比べて、自分で立ち直れるようになったという成長があることや放っておくと自分で帰ってこれるといった対応について教えてくださった。

少しでも顔と名前を覚え、幼稚園の先生も含めて子供についての情報共有ができれば、4月のスタートから、より子供たちに合った教育をスタートさせることができると思う。また、どのような遊びをしているかを知ることは、スタートカリキュラムとして、教科の学習につなげる際にも役立つと感じた。

遊ぶ際には、幼稚園のねらいを知った上で、遊び方を考えることが必要だと思う。今回であれば、なわとびのように働きかけることが大切だと思う。

○ リレーでは子供に「勝たせてあげる」のではなく、大人が勝利する場面が何度もあった。大人が勝つことで、子供も本気になってくるのだろうと感じた。一緒に時間を過ごす中で少しずつ仲良くなれるので、入学前に関係が築けるのはいいなと思う。子供たちの不安も軽減されると思う。附属幼稚園の子との距離が縮まる一方で、他の園から来た子たちは「どうしても先生と仲良しなんでしょう」と不安を感じる子がいるかもしれない。その点は、教師側の配慮が必要だと思う。どのような配慮が有効か考えていきたい。

## 2 「小学校ごっこ」(幼小教員コラボ)を実施して

(1)2月25日、「赤組(年中)さんに青組の思い出を絵で伝えよう」(指導計画案は巻末資料参照)

### <概要>

\* 小教員が来ることを幼児に予告しておくことで、子供の先生に会えるのを楽しみに思う気持ちを高めた。小学校のチャイムの代わりに始めと終わりの音楽を聞かせておいた。

- ・ 幼教員が、「赤組(年中)さんに、青組(年長)しかできない楽しい行事を教えてあげよう」と投げかけ、1年間の行事を写真を出しながら一緒に振り返った(写真は時系列でホワイトボードに貼っていく)。小教員は、幼児と同じ座席に座り、楽しそうに聞いた。
- ・ 自分が伝えたい行事を選択したら、思い思いに絵を描いていった。小教員は周りながら、個別に褒めたり、楽しい思い出に共感したりした。
- ・ できた人から、幼教員に持って行き、褒めてもらい、幼教員は掲示ボードに作品を貼っていった。小教員は貼られた作品を見ながら幼児を褒めた。また、片付けを終えて、本を読みながら待っている幼児を「もう、立派な小学生になれるよ」と積極的に褒めた。
- ・ 幼教員が全員の作品が貼られた掲示ボードを指しながら褒めた。そして、小教員も続けて褒め、更に「一緒にお絵かきに誘ってくれて嬉しかったこと」「こんな素敵なみんなが小学校に来ることが楽しみなこと」を伝えた。



幼教員が写真を提示しながら青組の思い出を写真で振り返る(小教員は幼児と一緒に聞く)



選んだ思い出について尋ねる小教員





ぼくの選んだ思い出はね、あれだよ。

小教員も一緒に



幼小連携支援員さんのサポート



できた絵を貼っていく幼教員



終わった子は片付けて本を読んで待つことにチャレンジ



小教員からの褒めことばのシャワー  
と小学校入学へのメッセージ



元気に入學して来るのを  
楽しみに待ってるよ。

今日は楽しかったよ。  
また一緒に遊ぼうね。

小学校へ帰る時刻がきて、お別れを惜しむ

### 幼小教員合同の振り返りから

- ⑧ 全員一斉で始め、一斉で終わる小学校スタイルの中に、幼稚園の年中さんに伝える活動を取り入れた。始めと終わりの音楽を工夫したり、小教員と一緒に活動したりすることにより楽しく取り組めた。年間を通しての小2と年長の交流、3日間の小学校体験との連続性が、子供たちに安心感を与えるのだと思った。
- ⑨ 小教員の来園を予告することにより、朝から子供たちのわくわく感が高まっていた。
- ⑩ 異校種の先生の褒め言葉は体験入学のときから効果抜群だと感じた。
- ⑪ みんな上手に思い思いの絵を描いている。子供のことがよく分かったのが小学校教員として一番の成果。
- ⑫ 自分の好きな絵でOK。認めることが大切だと思った。
- ⑬ 作品が完成したらどう動くか、本を取り出したり片付けしやすくする環境など、子供がどう動いたらよいのか分かりやすく設定されていた。分かりやすい動線は大事な発達支援だと感じた。

(2)2月28日 「校園長先生からプレゼントが届いたよ！絵を描いて思い出の鉛筆立てにしよう」  
(指導計画案は巻末資料参照)

<概要>

- \*3日前の1回目終了時に、小学校体験と一緒に算数ごっこをしたY先生が来ることを予告しておいた。
- ・小教員が持って来た校園長先生からのプレゼントを幼教員が示し、絵を描いて素敵な鉛筆立てにしようと提案した。小教員は説明に合わせて、子供の作成に対するわくわく感に共感した。
- ・自分の満足する鉛筆立てになるよう、思い思いに絵を描いていった。小教員は、個別に褒めたり、楽しい思い出に共感したりした。
- ・小教員が絵本「かぶとむしとランドセル」の読み聞かせをした。
- ・絵本の話に合わせて、小学校のことや自分の気持ちを伝え、安心感をもたせた。
- ・小学校体験で経験した「気を付け、礼」の終わりのあいさつをした。



校園長先生からの卒園のプレゼントが届いたことを伝える(小教員は説明に合わせて嬉しそうにわくわく感を伝えた)



教卓の上に鉛筆立てを並べると幼児たちは身を乗り出す



鉛筆立てを渡すと素早く机を準備し作業へと向かう



どきどきして隠れてしまった幼児も、なじみのある小教員の「一緒にしよう」の声かけで、だんだんと活動に向かえるように





すっかり仲良くなり一緒に絵を描く



これはY先生が自転車に乗っているところだよ

小教員の絵を描く子も



小教員の大好きな絵本を一緒に



読み聞かせが始まるとだんだんと寄ってきて



困ったことがあったら、先生がカブトムシランドセルみたいに助けてあげるからね。

小学校の話も交えての読み聞かせに聞き入る



あいさつの仕方も知っているよ。気を付け！ 礼！

小学生を思い浮かべながら、終わりのあいさつも

### 幼小教員合同の振り返りから

- ⊕ 2回目の小学校ごっこで、2日前から子供たちは楽しみに待っていた。予告の効果は抜群。校長先生からのプレゼント設定も意欲UPにつながった。
- ⊙ ときどきして隠れてしまった幼児も、先生の声かけでなじんできた。これまでの関係性をつくってきた過程や「一緒にやろうよ」の声かけが効いたのだろう。何よりもY先生の人柄がなじませたのだろう。
- ⊙ 「かぶとむしとランドセル」の絵本の読み聞かせは、小学校のイメージがいいものになるように、間で「小学校の先生はみんな優しいよ」などと文脈に沿った説明を入れた。皆、真剣に聞いていた。
- ⊙ 「本を読むよ」では寄ってこなかった子供も、読み聞かせを始めると、だんだんと寄ってきた。やはり、指示より興味関心だと思った。小学校の指導でも心がけたい。
- ⊙ 自分たちで机やイスを出したりする。作品の置き場所など幼児なのによく分かっている。分かりやすい環境づくりを小学校でも心がけたい。

### (3)3月6日、「卒園式の練習に小学校教諭が参加」

#### <概要>

\* 事前に、小学校体験でお世話になった小学校の先生が卒園式の練習に来て、いいところを見つけてお話ししてくれることを予告しておいた。

- ・小教員は一生懸命練習している幼児を観察し、いいところを見つけた
- ・学部長告示の際、代理として演台に立ち、幼児に向けて、いいところや小教員の気持ちを伝えた。

小教員が幼児に話したことは以下の通り

「顔、覚えてくれているかなあ。(はい) 今日、応援にきたよ。みんなすごくかっこよかったよ。特にかっこよかったことを3つお話しするね。(1)返事の声が「はい」と、いい返事で聞いていて気持ちがよかったです。(2)座り方も上手で、手がきちんとお膝に置いていたね。小学校でも習うことだけど、もうできています。感心したよ(幼児の姿勢が一層よくなる)。(3)気を付けの姿勢がすばらしく背中が伸びています。

小学校のお兄さんもお姉さんも先生方もこんなかっこいいみなさんが入学してくるのを楽しみにしているよ。みんななら、かっこいい入学式ができるよ。小学校で待っているね。」



小学校教員に褒められて、一層、姿勢がよくなる幼児たち



### 3 近隣の幼、保、子ども園との幼小教員コラボの可能性

本校が附属幼稚園と協働して行ってきた、①「年長・小2の交流」②「小学校体験」③「卒園までの小学校ごっこ」の連続した流れの中で、特に効果があったものの中から、交流の時間が比較的少ないケースでも適用可能な実施モデルを考えた。

今年度、近隣の園に出向き、幼小教員コラボを行い、効果を検証する予定であったが、コロナウイルス感染予防のため中止した。次年度実施したい。案を以下に示す。

#### (1)全体の流れ

①入学周知会を利用した2時間程度の小学校体験(2月上旬)

②小学校教員の訪問による幼小教員コラボ活動(2月下旬)

③小学校教員の卒園式練習参加(3月上旬)

④入学式前日のリハーサル(希望者)

\* スタートカリキュラムへ

#### (2) 小学校教員の訪問による「幼小教員コラボ活動(2月下旬)」の適用案(指導計画案は別資料参照)

\* 事前に教員に、小学校の先生が来ることを予告してもらうようにする。

○ 小学校教員の自己紹介を聞く。

\* 小学校体験のことを想起させながら自己紹介をし、一緒に遊ぼうと投げかける。

○ 一緒に遊ぶ。

\* 幼児と仲良くなる。

○ 遊んだ後の帰りの会等の時間に、「かぶとむしランドセル」の絵本の読み聞かせを聞き、小学校の話聞く。

\* 小学校について楽しく、いいイメージをもてるように「小学校の先生はみんな優しいよ」などと、お話の文脈に沿ってコメントを入れる。

○ あいさつ (全部で30分から40分程度の予定)

### 4 小学校体験から卒園までの1か月を振り返って

幼児は、どの活動も楽しかったこととして、「一緒にしてくれたこと」を挙げていた。また、小学校の先生に褒められることはとてもうれしく、接続をスムーズにする効果がある。小教員にとっても子供を知ることや幼稚園での遊びを知ることができ、スタートカリキュラムに取り入れられる。小教員が幼児と一緒に遊ぶ場を今後も確保していきたい。

連続性や繰り返しの効果もたくさん見られた。小学校体験のときの先生と幼稚園で一緒にできる喜びも大きく、だんだんと小学校の先生や小学校のことが、記憶にはっきりと残るようになってきている様子が伺えた。

幼小教員コラボ活動では、子供が興味を示す状況を用意することが大切である。そのために子供が何に興味をもっているかを教員としっかり打ち合わせをする必要がある。また、予告や流れの明確化、子供の動線の明確化など発達支援の視点からの環境調整も有効に働いた。

小学校へは、様々な幼・保・子ども園から入学してくるので、事前にそれぞれから、情報を収集し、皆が楽しく活動でき、「友達100人できるような」スタートカリキュラムを実施していきたい。